

ジュニア・ユースの教育の重要性と緊急性

尊田 望

2000年度のレズワン・メッセージで、万国正義院はジュニア・ユースの教育の重要性と緊急性を強調している。この発表ではまず、ジュニア・ユースの定義を身体的・認知的・社会的・道徳的・精神的局面から見直した。次にジュニア・ユースの発達段階を人間の一生という流れの中で位置づけ、そのユニーク性を検討した。3番目に、ジュニア・ユースのニースを確認し、最後に、ルヒ・インスティテュートのジュニア・ユース教育プログラムを効果的なモデルとして紹介した。結論として言えることは、ジュニア・ユースは子供期から成人期へ移行する過渡期にあるユニークな年齢層であり、したがってその教育プログラムもそのニースに合わせた、ユニークなものでなければならぬ。

平和教育

角井 宏

世界の平和教育の概況では、学校教育の重要性が強調されていますが、日本の学校教育では、世界的貢献の基礎としての道徳性の基礎を培うことに主眼が置かれ、余り具体的な基準は示されておりません。これは一般道徳のほか憲法及び国連学習が基本となるからと思われませんが、これらの学習については若干の問題点が感じられます。

しかし、日本の伝統文化学習で、能や平家物語のように、謙虚や心内の平和(愛、許し)の美徳的価値を訴えるものも多く、抜い方によっては、バハイの唱導する人間の「生き甲斐」や「人生の目的」に直接手応えするものが少なくないと思います。

パネル紹介: ヴァーチュウ (美徳) と人類の繁栄

概要

鈴木ルース

バハイの聖典によれば、人生の目的は二つある。一すなわち、私たちに内在する美徳を完成することと、常に進歩する文明を発展させることである。このパネルは、これらの目的に影響を及ぼす生活の重大な要素を検討した。発表のテーマは、人生における魂の旅の基礎作りにおける家族の重要な役割、家庭で築かれた基礎を補強する学校教育の重要な役割、美徳を磨いたり社会の進歩を促したりする場としての会社と職場の環境、そして、各個人が精神的変革を実現するための明確な処方箋であった。